


ふりがな 氏名	てるや あいか 照屋 愛香	都道府県	沖縄県	
所属/肩書	沖縄県立沖縄水産高等学校 / 教諭			
私のESD活動	異文化に理解を示し、世界と共存していることを自覚し、他人に関心をもてる人づくり			

活動の概要

青年海外協力隊員として

1月まで、ヨルダンの UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)の学校にて、青年海外協力隊として、2年間体育科教育の技術移転に精を出した。体育の授業を行う必要性も感じていない現地教員を変えないことには、支援は持続しないと感じ、現地教員が体育の授業をやりたいと思えるシステムを、周囲を巻き込むことで作り上げた。自発的に授業運営をするようになったことにより、より多くの生徒が体育の授業を通していろいろなことを学ぶことができるようになったと考える。

また、沖縄県の小学校とテレビ電話をつないで異文化理解・交流を目的とした授業を行った。さらに、帰国した際にはその小学校へ行き、報告会を行い、約 100 人の児童と交流を持った。また地域でも交流会を行うことで、異文化をより身近に感じてもらうことで地域住民にも異文化理解をあおぎ、世界と共存しているということを伝えることができた。

現在教員として

普通高校ではなくたくさんのコースがある専門高校の中で、世界と共存することを自覚し他人に関心をもてる人がつくれるような種をたくさんまいている最中である。通常授業の中で、私しかできない例え話や比較の仕方をしている。

学級運営でも然り、生徒の中の世界の中心と当たり前があるように、異文化や彼らの常識から外れているようなことを当たり前のように話したり、行ったりしている。

○「The Jordan Times」 <http://www.jordantimes.com/news/local/through-sports-children-learn-teamwork-discipline%E2%80%999>

今後の活動や協働への展望

教育現場の中で、様々な交流活動ができたらいいなと思っています。コンファレンスでできた仲間に講話をしてもらうも、コンファレンスで得たことをヒントに授業の中で新たな気づきを促したワークショップをするも、コンファレンスでできた仲間が育てようとしている新たな人材と、何か媒体を通しての交流活動も。コンファレンスで得た仲間と協力し、自分のESD活動を発展させていきたいと思っています。また逆に私自身が仲間のESD活動に協力させてもらうことで、さらに新しい気づきを得て、学校現場へ持ち帰ることもできると考えます。

しかし何よりは、日常の中で、通常授業の中で、少しずつ広げていきたいと思っています。異文化に理解を示し、世界と共存することを自覚し、他人に関心をもてる人が増え、自分のできることからやろうとする人が増えると、助け合いながら生きていける世の中になるのかなと、考えるからです。

ESD 日本ユースの一員として、仲間を作ること、そして仲間と話し、意見を聞き、協力して1つの仕事をやり遂げる・交流活動やワークショップをしていく。このことで互いに新たな気づきをよび、互いに高めあって刺激しあっていきたいと考えています。